育成 モノづくり人材 Vol.40

茨城県立 水戸工業高校

「文武不岐」実技も部活動も

茨城県立水戸工業高校は茨城県内で最大の規模と歴史を誇る工業高校だ。1909年に創設し、今年で107年目を迎える。これまでに約2万2000人の人材を輩出。2015年度は民間企業などへの就職が約6割、大学や専門学校への進学が約4割だった。

設立当時、まだ全国でも珍しかった「応用化学科」を早くから設置していたことで知られる。化学分野の知識をモノづくりにどう生かすかを学ぶもので、「工業化学科」と改称して現在に至る。

6学科で1学年あたり8クラスは県内の工業高校で最も多く、関連する各種設備も数多く備える。充実した教育環境で学んだ生徒の技術も確かなものだ。15年度は「若年者ものづくり競技大会」の電子回路組立て部門で情報技術科の生徒が全国3位だったほか、建築科からは「高校生ものづくりコンテスト」の木材加工部門で8年連続の関東大会出場を果たすなど、学外の大会などで安定した実績を積み上げている。

部活動が盛んな点も特徴。過去3年間だけでも運動部で陸上競技部、弓道部、山岳部、柔道部、文化部ではジャズバンド部、自動車部、工業技術部、マイコン部が全国規模の大会に出場している。部活の数は運動部が15、文化部が12の計27に加え、軽音楽など三つの同好会があり、全校生徒の7割が部活動に所属する。

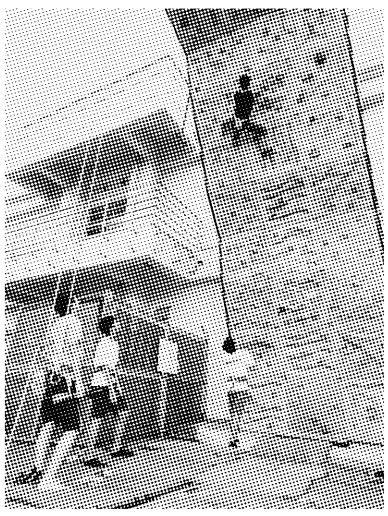
部活動に熱心な理由は、江戸時代に水戸藩に作られた藩校「弘道館」の建学の精神である「文武不岐」の考え方を生徒に伝えたいという橋本清明校長の思いがあるからだ。文武両道と同義のこの用語を、集会などを通じて繰り返し口にするよう心がけている。橋本校長は文武不岐の精神を実行する意義を「座学以外に実技も多い工業高校にとって、部活動に真剣に取り組むことは学業の充実につながる」と説明する。

企業と協力したインターンシップ（就業体験）にも力を入れる。15年度は県内に拠点を持つ大企業や中小企業26社のインターンに95人が参加。10年度時点では8社に対し25人で、近年は特に増加傾向にある。橋本校長は「単に仕事を体験するだけでなく、職場での人との関わり方なども学べる絶好の機会だ」と話し、さらなるインターン推進に意欲を示す。（茨城・大原翔）

（金曜日に掲載）

橋本校長

【DATA】▷校長＝橋本清明氏▷所在地＝水戸市▷学科構成＝工業化学科、機械科、電気科、情報技術科、土木科、建築科▷生徒総数＝949人▷主要設備＝マシニングセンター、数値制御（NC）旋盤、高電圧放電実験装置、ロボットアーム実験装置など▷主な進路＝日立製作所、コマツ、新日鉄住金、関電工、クボタ、日野自動車、日本原子力研究開発機構、筑波大学、茨城大学、日本大学など



山岳部から12月の全国大会に女子生徒が出場する

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社